# 真珠業界に多大な貢献を果たした小松博を偲ぶ会

## 知識を養うことの重要性を教えてくれた

真珠業界のみならず、宝飾業界にも多大な貢献を果たした真珠研究の第一人者で真珠科学研究所の創業者、小松博（こまつひろし／享年83才）が8月24日に永眠し、11月18日、東京都港区にある第一ホテル東京で、「小松博偲ぶ会」が催され、200人近くの関係者が集まり追悼した。

発起人代表は、㈱田中真珠の金子康男。実行委員は、小川日出丸、㈱東京宝石科学アカデミーの渥美郁男、㈲PJ中村インターナショナルの中村雄一、㈱真珠科学研究所の佐藤昌弘。

小松氏は、1940年に横浜で生まれる。1963年に東京水産大学（現：東京海洋大学）卒業後、㈱ミキモトに入社し研究室に勤務。1987年に同社を退社し、1991年に真珠科学研究所を設立した。

2001年に神戸芸術工科大学大学院芸術工学研究科博士課程修了、2005年に「真珠のてりのメカニズムの光学的研究」により芸術工学博士号を取得している。

小松氏は誰もが語るほど研究に熱心だった。40年の研究（当時）で最大の発見としていたのが、アコヤ真珠のてりの解明だ。たまたまライトビューアが点いていたところ、その上に、たまたま持っていた黒蝶（真珠）を乗せてみると、黒蝶真珠の表面に淡い虹色の光を発見したという。つまり虹色の光がてりを生んでいることを発見し、そこから科学的に虹色の光を数値化し、てりを5段階で評価した世界初の鑑定書を完成させた。

それまでは真珠（鑑定）の名人クラスが目で見て良し悪しを決めていたわけで、科学的根拠による評価基準が生まれたことで、日本の真珠と真珠文化を守っていくことができるようになり、小松氏の発見はとてつもなく大きい。

もしも判断基準が曖昧のままであったら、どの真珠が良い真珠なのかわからず、ネットなどで真珠を購入しても、それが値段に見合う品質のものかわからなかった。また高い真珠は品質がよく、安い真珠は品質が悪いと単純な判断だけであったら、真珠のことはどうせわからないのでイミテーションでも良いというようなことになっていた可能性は否めないのだ。

小松氏は生前「日本の伝統文化である真珠の正しい知識を広げ、本物のみが有する重厚な多重色の輝きの高級感、何よりも良いものを身に着けている気持ちこそが、内面からの気品や風格を醸し出してくれるもの」と説明しており、そのためには「先ずは良いものを見る目、そして知識を養うことが大変重要だ」と説いていた。

価値ある真珠を適正価格で流通させていくことが業界の役割であり、また伝統文化である日本の真珠を絶やさないためにも継続した研究が必要で、正しい知識を身に付けることが業界人の責務であろう。さらにこれからはグローバル化が加速する。研究もより重要な要素となり、生産者との連携が必要となるかもしれない。これからも知識を養う重要性は増していくことだろう。

発起人代表の金子氏は「研究を重ね真珠業界に多大な功績をもたらした人。こうして価値ある真珠を世界に輸出できるのも小松さんの研究があったからこそで、言葉には言い表せないほど感謝している」と話した。

また、実行委員の佐藤氏は「仕事中も大好きだったお酒の席でも、ずっと真珠の話をしていた。色々なことを教わった。最近は小松のメモなどを片付けているが、てりの存在は随分と前から気づいていたようだった。今後も小松の想いを継承しながら、進化する真珠専門の研究機関として研究を続けていきます」と述べた。

小松氏の主な実績は、クロチョウ真珠の鑑別法を世界で初めて確立（1978）、クロチョウ吸収の発見（1979）、光透過法の確立・ナチュラルブルーの鑑別（1980）、真珠のオーロラ効果の発見（2001）、福井の鳥浜貝塚、北海道の茶津貝塚など遺跡から発掘された真珠の鑑別を担当、JJAジュエリーコーディネーターのテキスト「真珠」の部を執筆など。

著書は、真珠鑑別論序説、真珠グレーディング論序説、真珠メンテナンス論序説、構造養殖学試論、ニッポンの真珠がいちばん美しい（共著）。

なお、㈱真珠科学研究所と香港真珠研究所とは一切関係はないので、ご注意を。

# 生成AIでジュエリーをデザインし3Dプリンターで製品化

## EncordeRingが新サービスを提案

EncodeRing㈱（東京都渋谷区、角村 嘉信社長）は、ChatGPTを用いたオリジナルジュエリー制作AIのJewerly - Planner AIを発表。同サービスは、ChatGPTを用いたジュエリーデザインAIで、本物の人と会話をするようにジュエリーデザインを作成。3Dプリンターで製品にすることができるオーダーメイドサービスとなっている。

Jewelry Plannerは本物の人と会話をするような形でデザインを生成できるAIツールで、必要な項目を伝えるだけで簡単にデザインを作成することができるとしている。これまでに蓄積した製造の知見やノウハウを活かし、予算や条件に応じた最適なデザインを提案する仕組みだ。

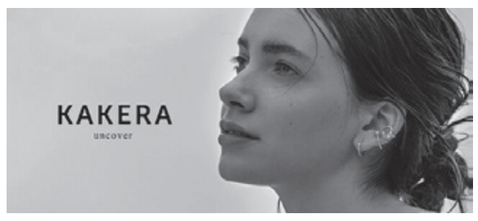
Jewelry Planner AIで生成したデザイン画像は、3Dモデル化し、3Dプリンターを用いて最終的なジュエリーとして製品にすることが可能。1本から制作することができるので、オリジナルの一点ものを気軽に制作することができる。制作したいイメージがすでに具体的に決まっている場合は、元となる画像をアップすることでデザインが可能だ。こういうイメージで作成したいという要望をストレートに伝えることができる。

EncodeRingでは、これまで累計5万本を超えるジュエリーを3Dプリンターを活用し制作してきた。特に音声の波形でデザインするオーダーメイドアクセサリーのEncodeRingは全て形が異なるため、1点物を大量に製作するための仕組みが必要だったと明かす。

今回のJewelry Planner AIでは、3Dプリンターを用いたマスカスタマイズの生産ノウハウを応用することにより、デザインが異なるジュエリーの大量生産の実現を目指すとしている。

また、ジュエリーデザイナーの数は少なく、業務が属人的なこともあるため、オーダーメイドジュエリーの障壁は高いままだ。生成AIを活用することでデザイナー不足を解決。さらに3Dプリンターをベースにした効率化された量産システムによって、オーダーメイドジュエリーの障壁を下げ、誰もが一点物を手軽に作成できる世界の実現を目指すともしている。

CT スキャン使用
天女、花珠、鑑別書
※天女、ロイヤル天女は日本宝石科学協会で商標登録されています
日本真珠学術協会
〒110-0005 東京都台東区上野 5-22-1 井上ビル4F
TEL:03-3836-2507 FAX:03-3836-2689




# 鉱物の自然美を照らす唯一無二のジュエリーブランド「KAKERA」をFDCプロダクツがローンチ

㈱エフ・ディ・シィ・プロダクツ（東京都品川区、瀧口昭弘社長）は、ありのままの鉱物の自然の美を照らす唯一無二のジュエリーを提案する新ジュエリーブランド「KAKERA」をローンチ。11月27日より発売開始した。

「KAKERA」は、自然の美しさを体現する鉱物をひとつひとつ手仕事で仕立てたジュエリーブランド。ありのままの鉱物の美しさに魅せられたひとりのジュエリーデザイナーが、自らが選んだ鉱物にジュエリーとしての命を吹き込み、あるがままの自然美を届ける。

また、かつては傷とされたインクルージョン（内包物）のある石さえも、自然が創り上げた美しい存在だと考える。インクルージョンは、ひとつの鉱物に入り込んだ他の鉱物や液体、気体やヒビなど、地球で長い年月をかけて育まれてきた鉱物の軌跡だ。美しさを見出された世界中の天然石のひとつひとつが、日常に馴染むデザインとして寄り添う。

デザイナーのKASUMI SANOさんは、「インスピレーションのもとは、鉱物と自然界のモチーフです。個性的なカラーストーンも、フォルムやテクスチャーにこだわり、毎日のファッションに馴染みやすいデザインに落とし込みます。宝石というカテゴリーを超えた、時代に左右されない“カケラたち”を日常に。ありのままの暮らしに溶け込むジュエリーをお届けします」と語る。

KAKERAのアトリエには専属のCADクリエイターと職人が常駐している。原型は平面のデザイン画からデジタルツールを用いて立体化し、その後ひとつひとつの細部に至るまで丁寧に手作業で仕上げていく。また一点物のジュエリーには原型を作らずそのジュエリーだけのために台座を作り石をセッティング。すべての工程に繊細さと高い技術が求められ、それぞれが長年磨いてきた巧みな技でデザイナーが思い描くさまざまな表情のジュエリーを作り上げる。

KAKERAのシリーズは6つ用意。一点物のコレクションから、シルバーコレクション、カラーストーンコレクション、ダイヤモンドが主役のコレクション、バーストーンコレクション、モチーフコレクション。

# アンゴラで208ctの原石を回収 過去最大は404ctと注目集まる

［The Watch＆Jewelry Today Onlineより］オーストラリアを拠点とするルカパ・ダイヤモンドは、アンゴラのルロ鉱山で208ctsのダイヤモンド原石を回収したと発表した。これは2015年1月に同鉱山が操業を開始して以来、三番目に大きなダイヤモンド原石となり、同鉱山で発掘された100cts超えのダイヤモンド原石は39個目となる。

このダイヤモンド原石は高品質なタイプIIa型ダイヤモンドで、高品質のダイヤモンドを産出することで知られるルロ鉱山のマイニングブロック31部分のリゼリア、またはテラスエリアで発掘された。

沖積層ダイヤモンド鉱山として世界で最も高いカラット単価を誇るこのルロ沖積鉱山での過去最大の発見は2016年2月、404ctsのタイプIIaダイヤモンドだった。また、このリゼリア地域では数週間前にも123ctsのダイヤモンド原石が回収されている。

さらに昨年11月、このルロ鉱山で発見され、過去300年間で最大のピンクダイヤモンドと言われている170.2ctsのルロ・ローズは金額非公開のオークションで販売されている。

アンゴラは現在、価格ベースで世界5番目、量ベースで6番目のダイヤモンド生産国だ。ルカパはルロの40%の株式を保有。残りはアンゴラの国営ダイヤモンド会社エンダイアマ（32%）とアンゴラの民間企業ロサス＆ペタラス（28%）が所有している。

# 「宝石箱アプリ」を作りたい！

## 流石にビックリしたアプリ費用に東洋ルースが最初で最後のクラファン

「笑顔創造」が企業理念の㈱東洋（埼玉県北本市、中村秀夫社長）が運営する、宝石「ルース」を全国の展示販売会で1石500円から販売する日本最大級のルースショップ「東洋ルース」は、東洋ルース史上、最初で最後となるクラウドファンディングプロジェクトに挑戦する。

同社は毎週日本全国を飛び回り、どこかで開催されている展示会、時には自社販売会を開催するなどして、年間およそ50～60回の展示会に出展し、年間利用者延べ50,000人以上、年間の宝石販売数は20万点を越える。

現在、顧客自身で持っている宝石・ジュエリーなどを手軽に管理できる「宝石箱のようなアプリ（宝石箱アプリ）」を開発中だ。多くの人が、自宅に宝石箱（宝石を保管する棚やケース）を持っていたりすると思うが、そんな宝石箱をスマートフォンのアプリにする事で、外出先でも自分が持っている宝石やジュエリーを確認する事ができ、余計な買い物を不要にしたり、持っていない宝石を集める指標にもなる。

そんなアプリを創りたいと思って約1年間、開発に開発を重ねた結果、とんでもない額のアプリ製作費になった事が判明した。

そこで今回、この開発資金の一部として、初めてクラウドファンディングを実施する事にした。宝石箱アプリは、2024年2月頃の完成を予定している。

東洋ルースがこうしてクラウドファンディングを利用するのは初の試み。正直、我々は展示会などのリアルなイベントの盛り上げを目的として設立した事業。そのため、今後もネット通販などのオンライン販売は一切行わない予定だとしている。しかし、アプリの開発費にかなりの費用がかかり、流石にビックリした。それでも資金を集めて宝石ファンへ「宝石箱アプリ」を届けたいという想いがあり、クラウドファンディングという形でCAMPFIREを通じて、力を借りる形にした。

2024年度の福袋をリターンとして、ここでしか手に入らない限定となる。そして、来年以降、福袋の販売なども一切行わないので、東洋ルースが提供する最後の福袋・そして、東洋ルースが行う最初で最後のクラウドファンディングプロジェクトになるとしている。

Woody Bell（ウッディー ベル）
東京都台東区東上野2-10-2第5政木ビル3階
TEL 03-5688-2390
http://woodybell-j.com/
e-mail/woodybell12@gmail.com

広告のお問い合わせは
時計美術新聞社まで
TEL：03-3833-1886